

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 ニツ山 達朗21 年度 (入学)

## 1. 研究課題:

チュニジア社会におけるオリーブ生業と宗教グッズの調査

## 2. 派遣期間:

平成 24 年 2 月 5 日 ~ 24 年 3 月 28 日 ( 53 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請時に目的としてあげた点は二点ある。一点目は収穫期における住民のオリーブに関する仕事を参与観察し、彼らのオリーブに対する接し方と作業を調査することであった。オリーブを主な生業としている村におよそ 1 ヶ月間滞在し、主に収穫と精油、木炭製造の作業に参加した。このことから、収穫が終る際や、精油の作業がなされた時に、バラカという単語をもってオリーブを表現することが確認できた。また、バラカという言葉以外にも、作業中に宗教的な意味が含まれる単語を発することがあり、それらの会話からオリーブがどのような状況下で宗教的な存在とみなされるかを知ることができた。

二点目はオリーブをモチーフとした宗教グッズの調査することが目的であった。オリーブのモチーフが工場でどのように製造されているかを参与観察した。また製造者や売店員から、何故オリーブが宗教的な意味を持っているのか、バラカの木とみなされるのかを聞き取り調査し、住民たちが語るオリーブの木の宗教的な意味を数量的なデータで得ることができた。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

本プログラムによる滞在は、約一ヵ月半であり、オリーブの収穫期のなかでもごく一期間のみの滞在であった。より長期にわたり彼らの生業を追うことができれば、より数量的に厚みのあるデータを得ることができると考えている。また、チュニジアの農業、農産物における宗教的な意味を追っていくことを考えているため、オリーブだけでなく他の主要な農作物にも着目し、彼らの作業を参与観察することにより、自らの研究にも広がりを見せるのではないかと考えている。ゆえに、今後は長期的な滞在を考えている。

また次項でも述べるが、今後は海外の学会や国際会議などに参加し、発表の機会を得たいと思っている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

渡航経費がかかる調査地の場合、本プログラムのように渡航経費を支援するプログラムがあることは、経済的に助かることであった。現地の研究者に会うという本プログラムの目的も、研究をする上で有意義であった。

今後は海外の学会などに参加、発表をする目的の留学プログラムがあると、大学院生にとっても、国際的な場に出てゆくよい機会となると考えている。また、学会だけでは短期間の渡航なので、それに併せて現地調査ができる期間が組み込まれたプログラムなどがあるとよいと考えている。

署名 \_\_\_\_\_